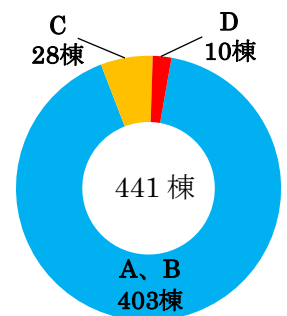


空家等現地調査の集計結果（中間報告）

区内全域の空き家の状況

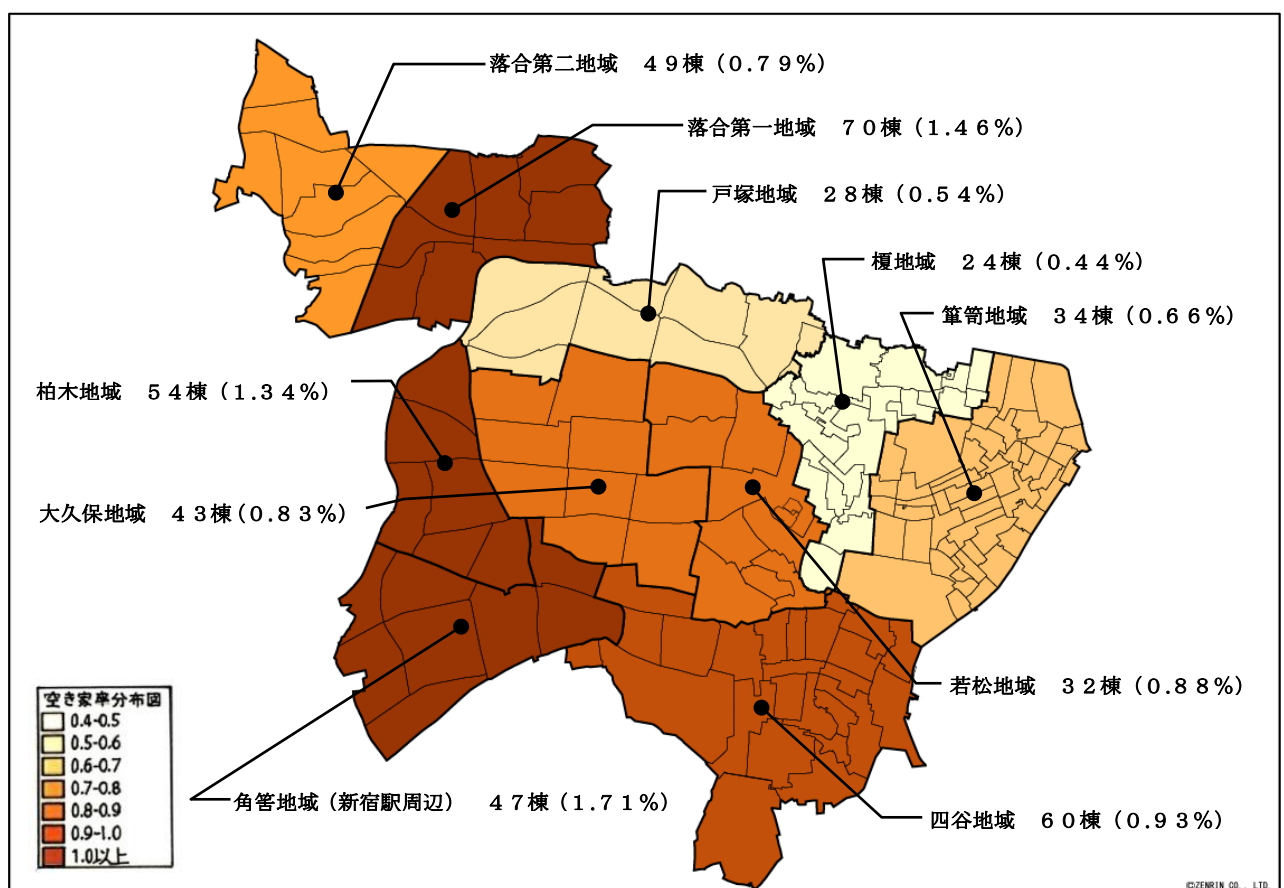
- | | | |
|----------------|-------|--------------------|
| (1) 調査対象区域及び棟数 | 新宿区全域 | 48,798棟（公共施設を除く。） |
| (2) 区内の空き家棟数 | | 441棟 |
| (3) 区内の空き家率 | 0.9% | （空き家棟数／調査対象棟数×100） |
| (4) 空き家の状況調査 | | c |

建物損傷状況	件 数	割 合
A 修繕がほとんど必要なく再利用が可能	4 0 3 棟	91.4%
B 軽度の修繕により再利用が可能		
C 老朽化が著しい・一部損傷あり	2 8 棟	6.3%
D 損傷が著しい	1 0 棟	2.3%
計	4 4 1 棟	



1 地域別の状況

- (1) 地域別の空家棟数及び空き家率
10地域に区分した空き家の状況を下図に示す。



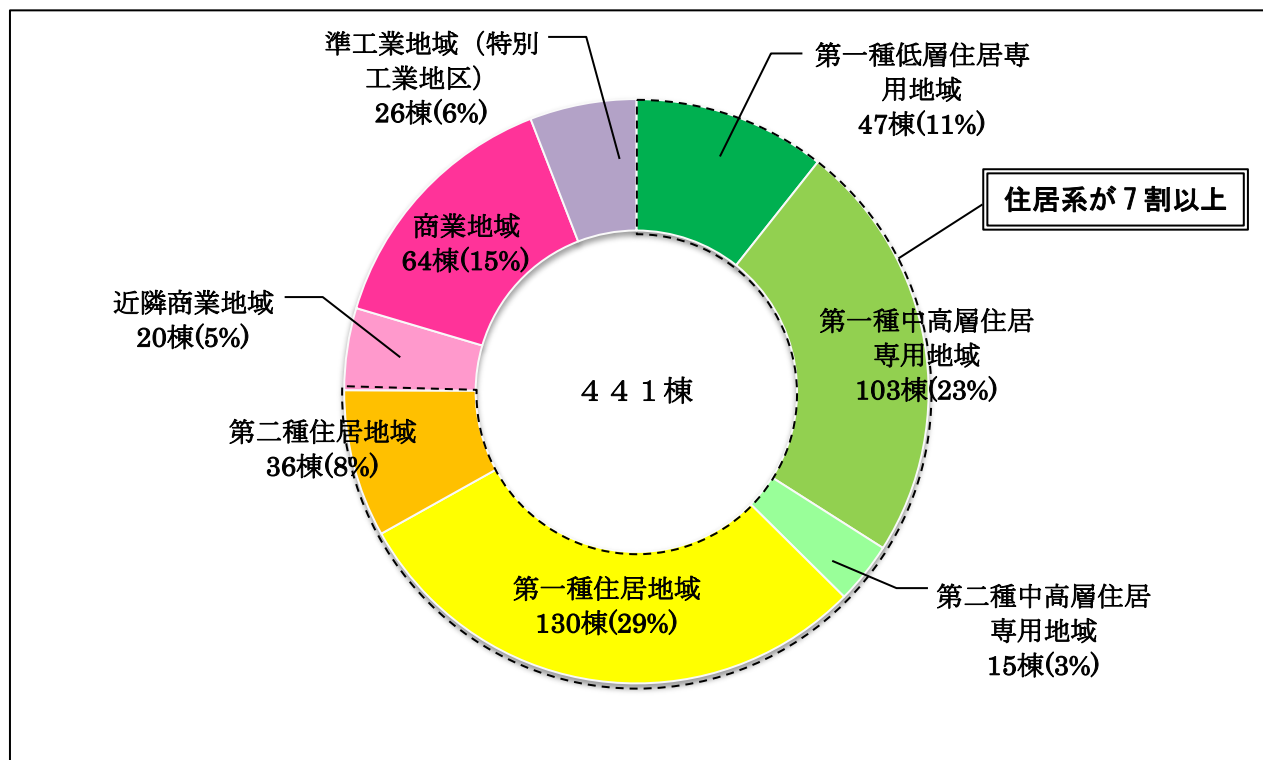
＜地域別の空き家棟数・空き家率＞

- ・地域別の空き家棟数は、落合第一地域（７０棟）、四谷地域（６０棟）、柏木地域（５４棟）、落合第二地域（４９棟）に多い。
- ・区内の空き家率は（０．９％）である。角筈地域が１．７１％、落合第一地域が１．４６％、柏木地域が１．３４％、四谷地域が０．９３％となり、４地域は平均より高い。

(2) 用途地域別

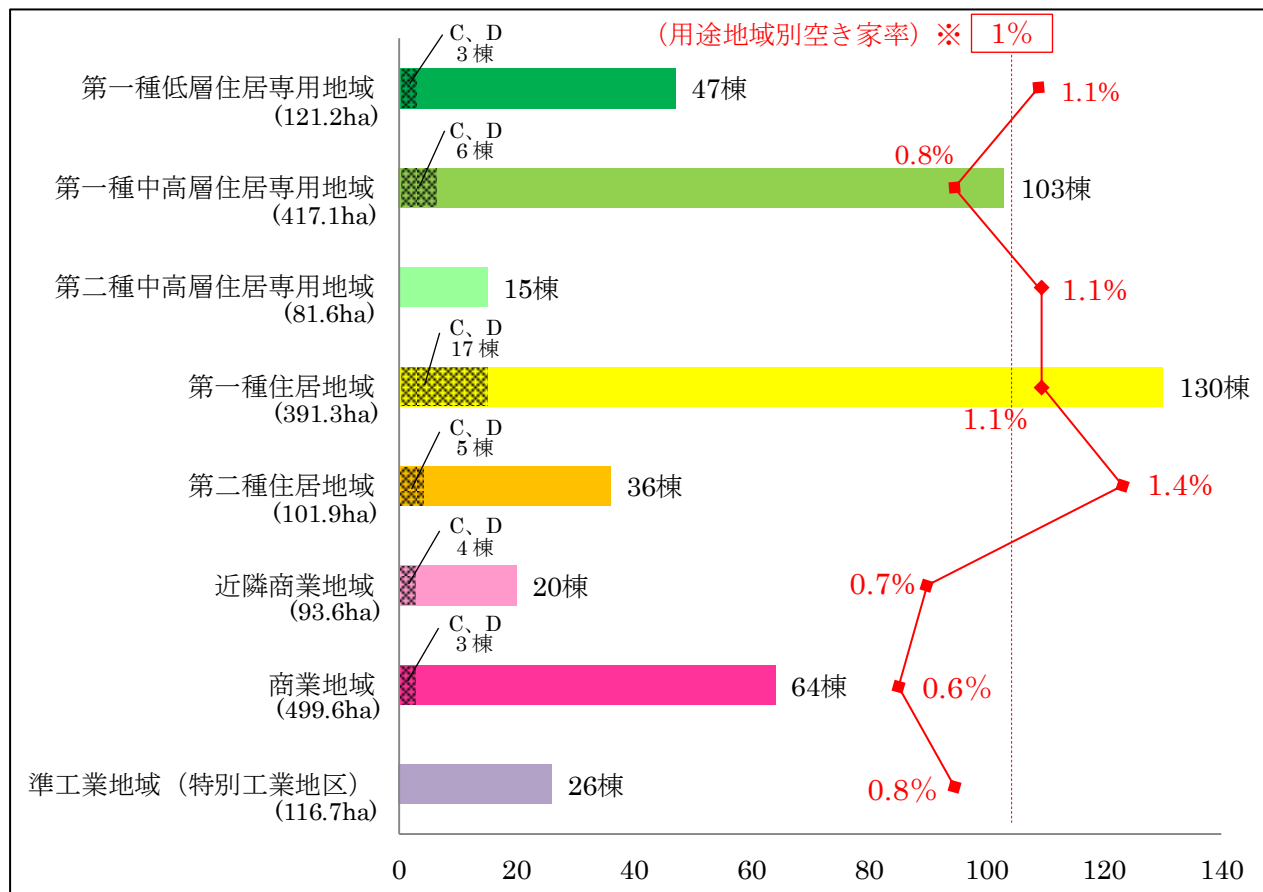
住居系が7割以上

住居系の用途地域の割合は計74%となっている。また、商業系が計20%で、商業系の地域にも空き家が一定数存在している。



用途地域別 (空き家のC, D状態 38棟)

(計441棟)



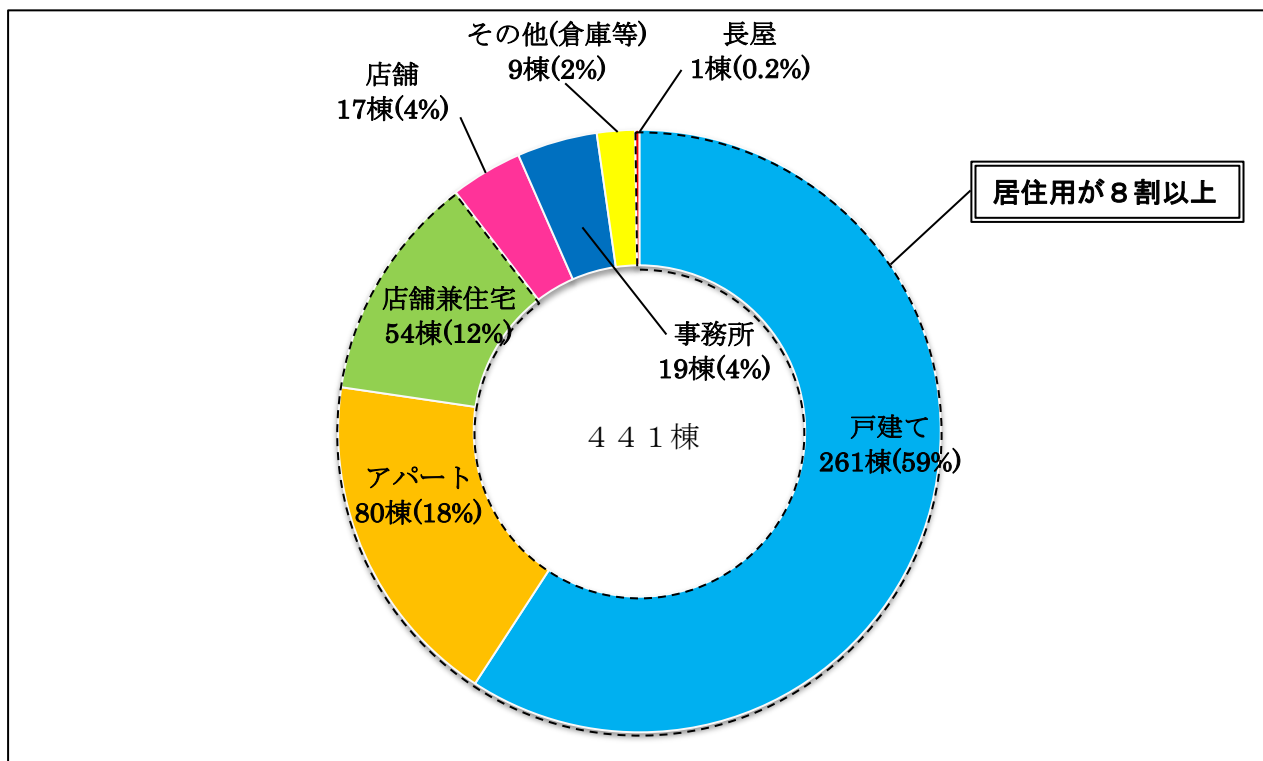
※用途地域別空き家棟数/用途地域別棟数×100
(用途地域別棟数は、平成23年土地利用現況調査による。)

2 建物に関する状況

(1) 用途別

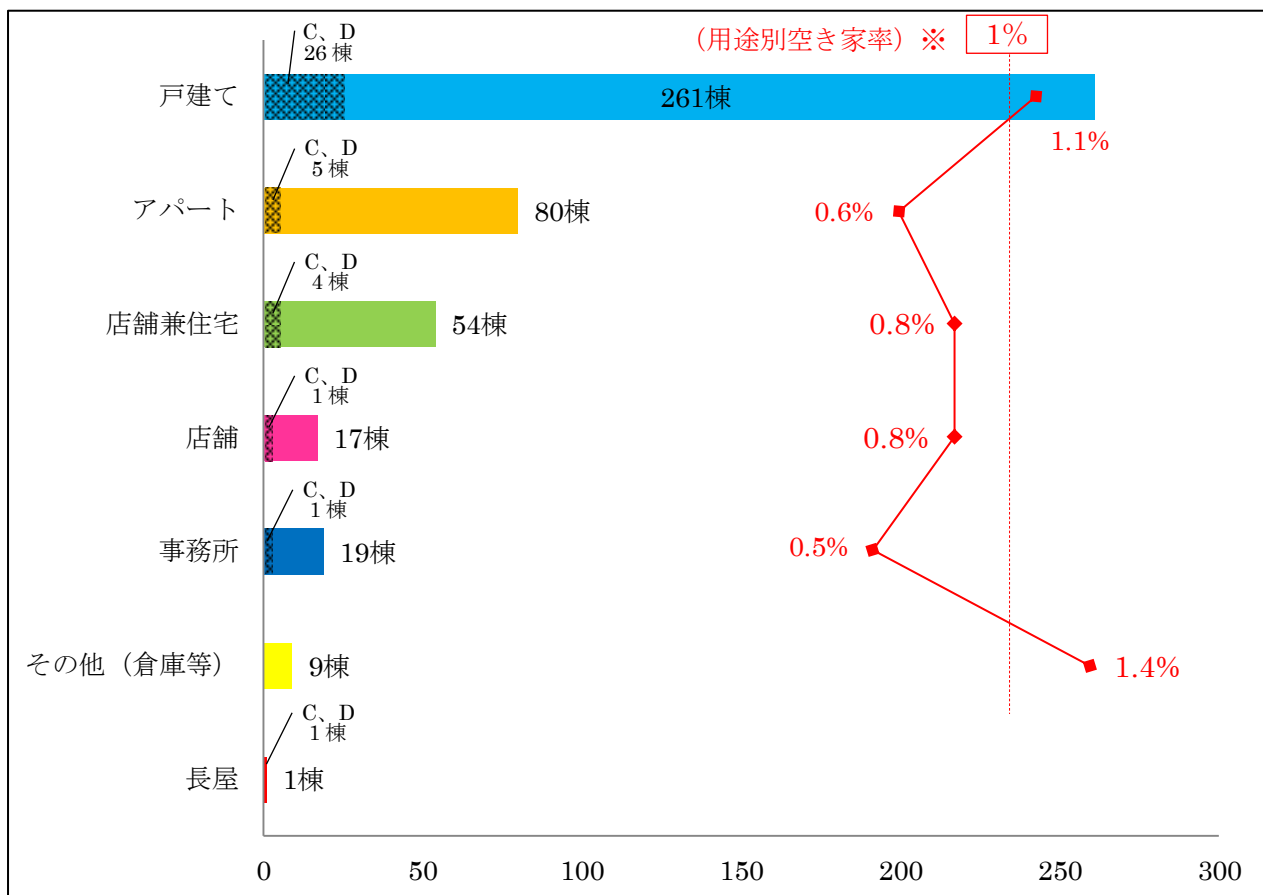
居住用が8割以上

「戸建て」が過半数を占めている。次いで「アパート」、「店舗兼住宅」、「長屋」を含めると住居系の建物用途が計89.2%と大部分を占めている。



用途別（空き家のC、D状態 38 棟）

(計 441 棟)

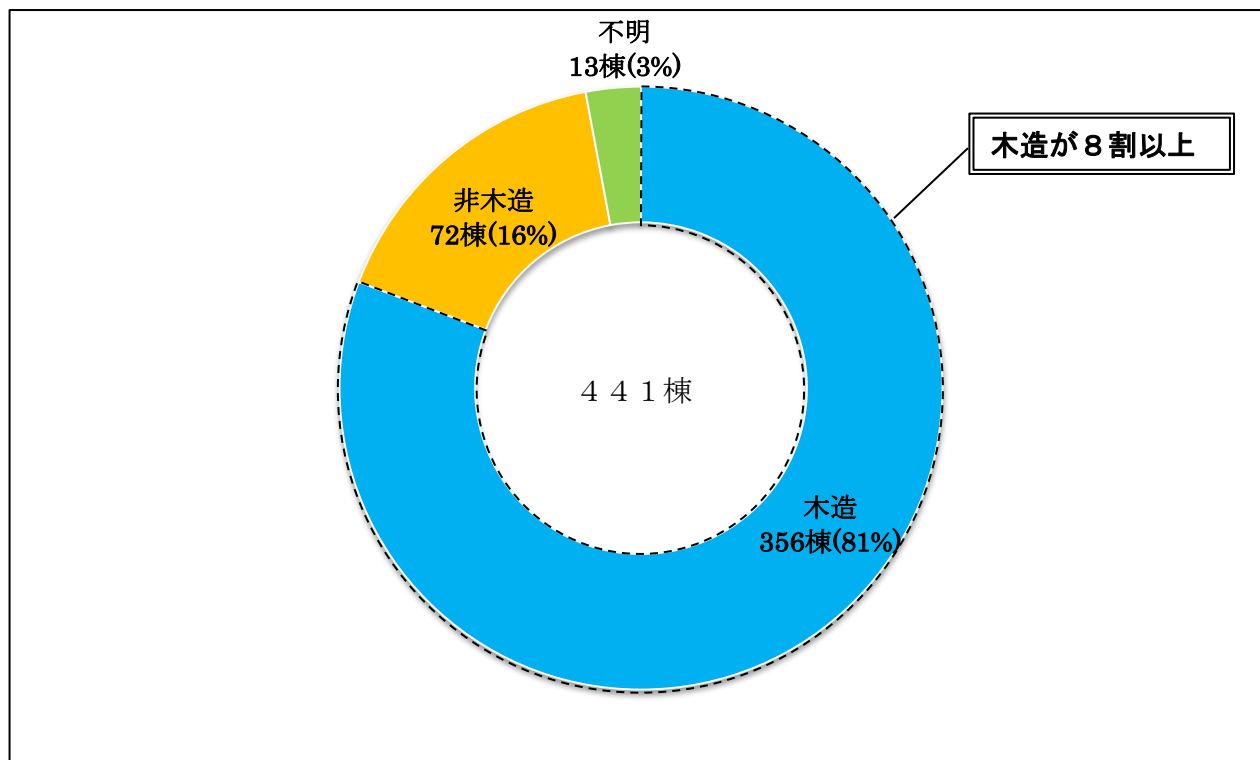


※用途別空き家棟数/用途別棟数×100
(用途別棟数は、平成23年土地利用現況調査による。)

(2) 構造別

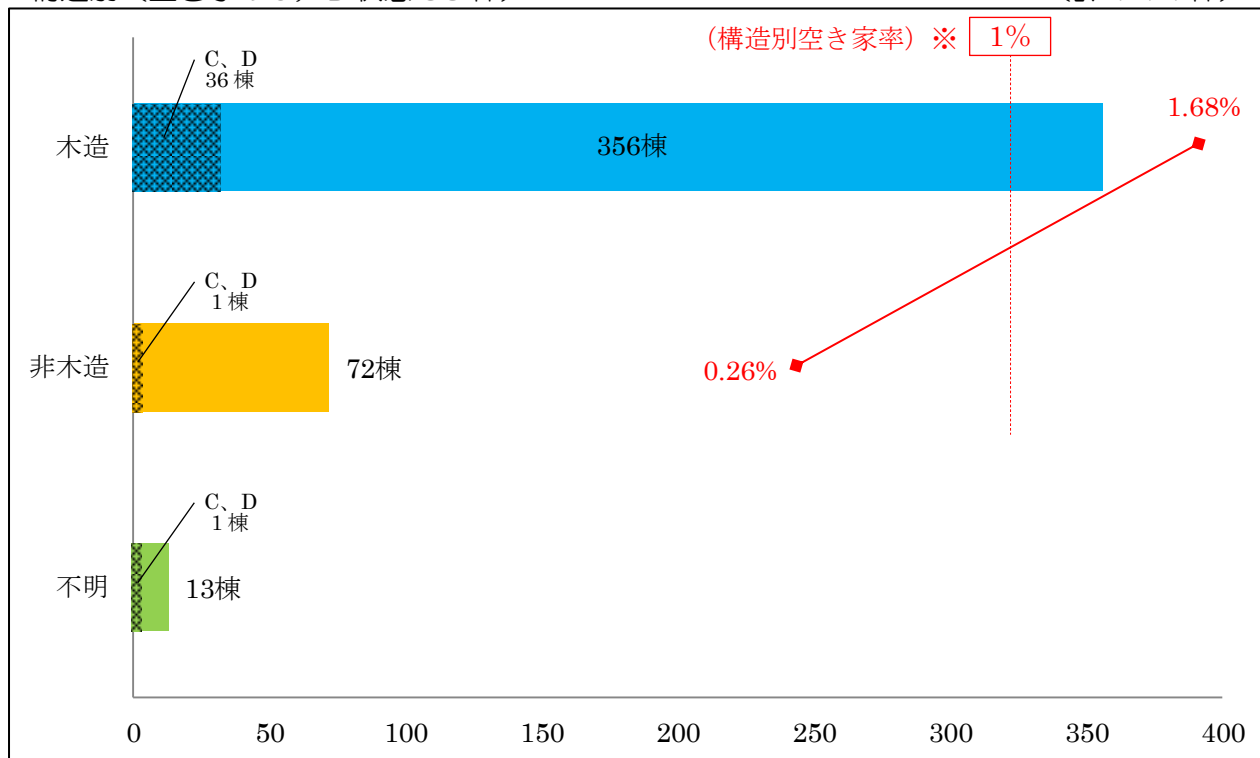
木造が8割以上

「木造」が81%と大部分を占めている。



構造別（空き家のC、D状態 38棟）

（計441棟）

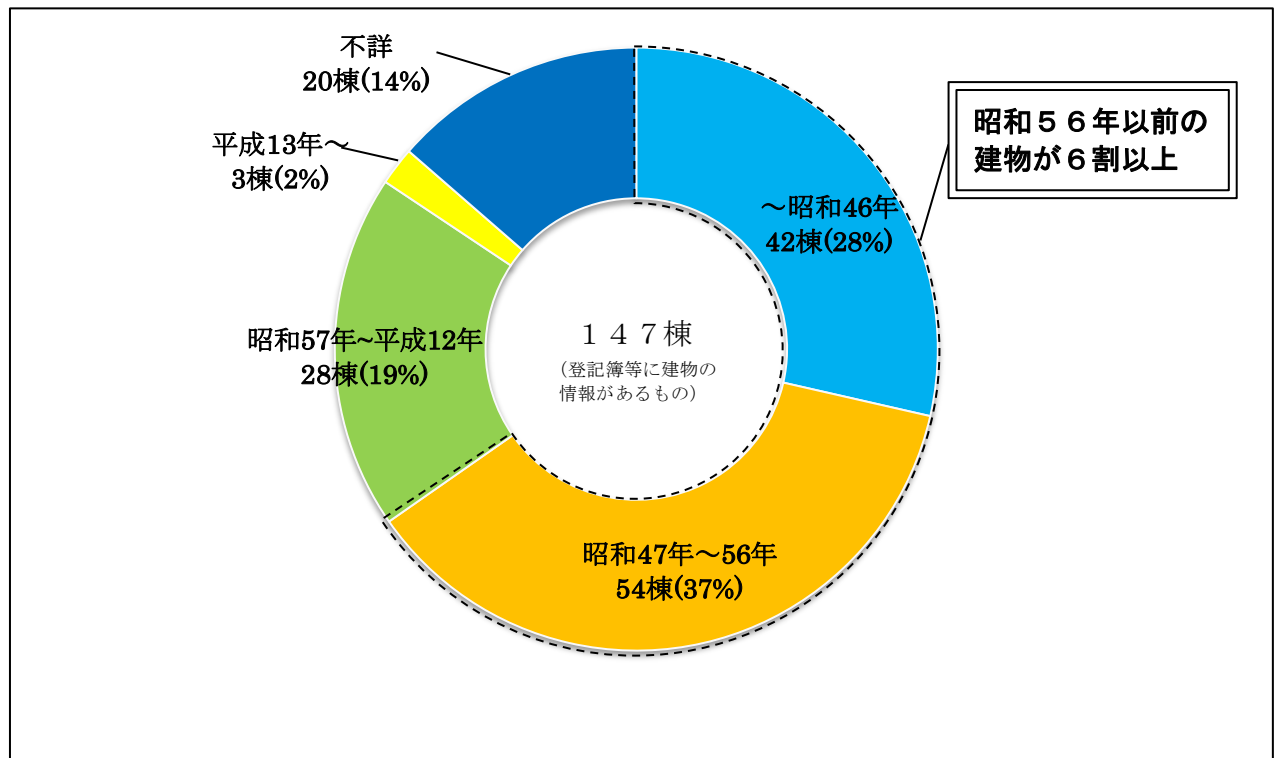


※構造別別空き家棟数／構造別棟数×100
（構造別棟数は、平成23年土地利用現況調査による。）

(3) 建築年次

昭和56年以前の建物が6割以上

「昭和46年以前」と「昭和47年～昭和56年」を合わせると65%と過半数を占めている。

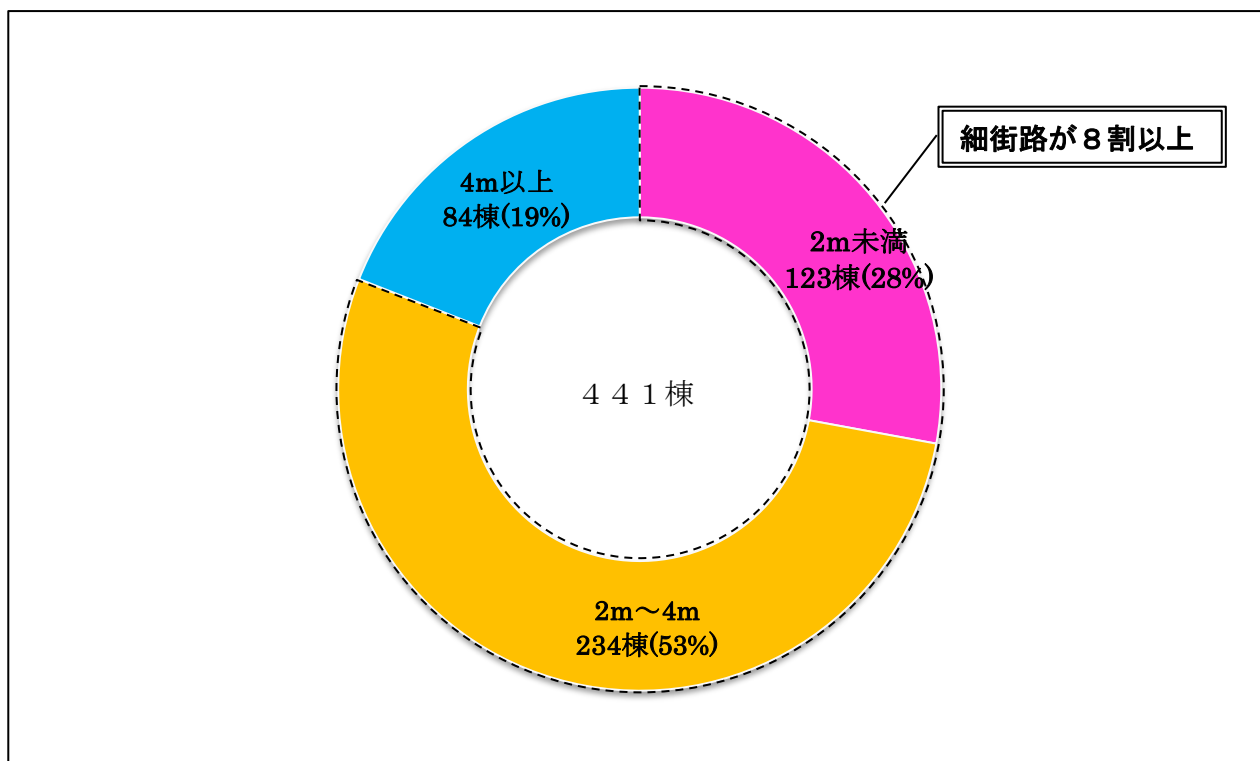


3 接道の状況

(1) 前面道路の幅員

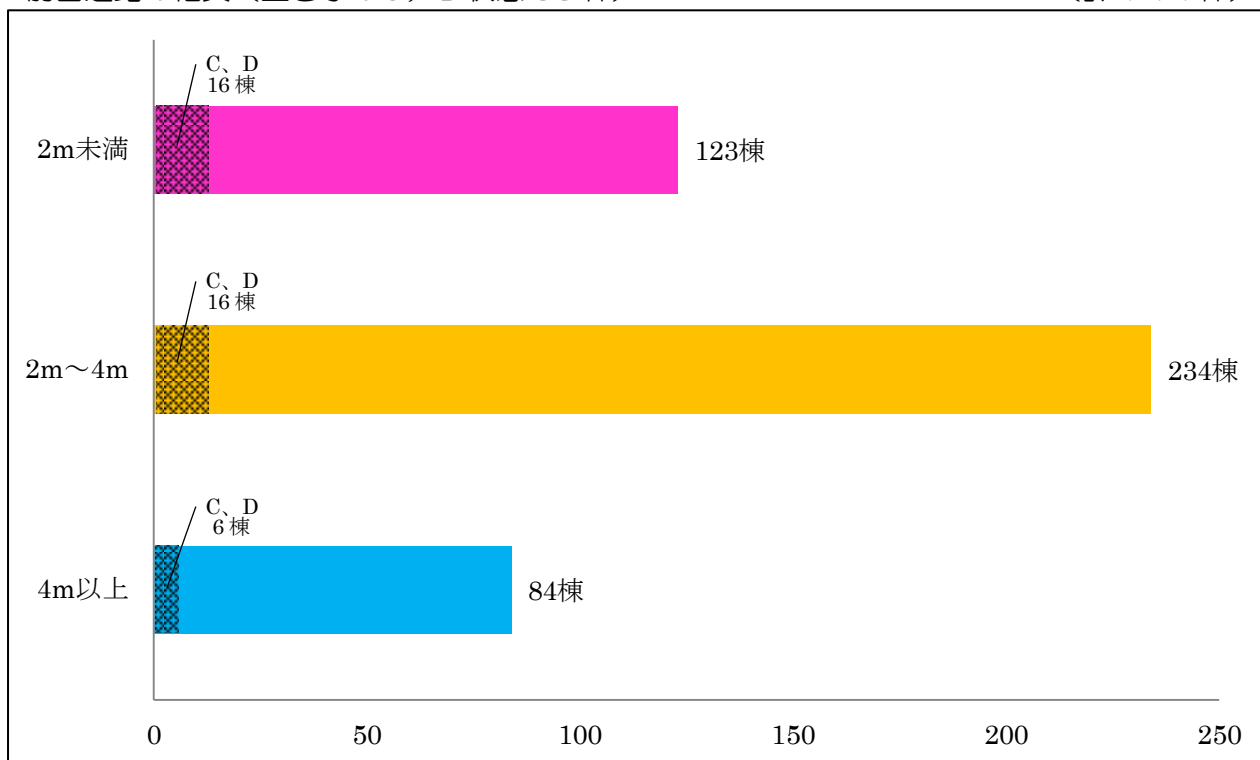
細街路が8割以上

空き家の敷地の前面道路の接道状況（前面道路の幅員）は、「2m～4m」が53%で過半数を占め、次いで「2m未満」が28%で、8割以上が細街路に面している。



前面道路の幅員（空き家のC、D状態 38棟）

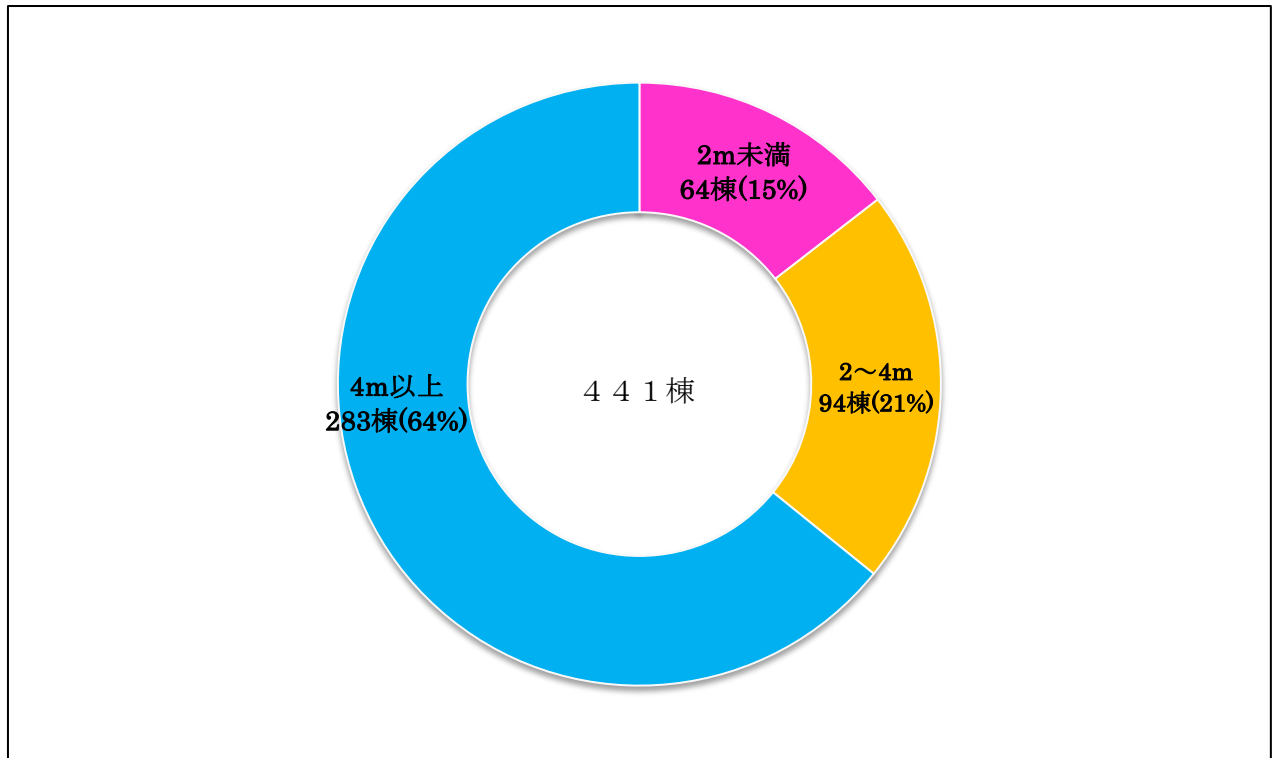
（計441棟）



(2) 道路に接する間口

4 m以上が6割以上

空き家の敷地が道路に接する長さ（間口）は、「4 m以上」が64%と過半数を占めている。一方、「2 m未満」である、いわゆる無接道敷地が1割強存在する。



道路に接する間口（空き家のC、D状態 38 棟）

（計441棟）

